

ご本尊さまとして、お釈迦さまをお祀りしてあるお寺をお詣りした際に、その左右に動物に乗った仏さまが祀られている場合があります。象に乗っている仏さまがいらっしゃいましたら、それは普賢菩薩ふげんぼさつさまです。

普賢菩薩さまはインドの言葉で「サマンタ・パドラ」といい「普あまねく賢い」という意味になります。普く賢いという意味が漢字で「普賢ふげん」となり普賢菩薩さまとなりました。

過去、火災にあいましたが、飛鳥時代の法隆寺の壁画に日本で最初に描かれた普賢菩薩さまが残っています。その後、奈良時代にはほとんど制作されず、平安時代になってから制作されるようになります。

『法華経ほけきょう』には普賢菩薩さまが、後の世で『法華経』を唱える修行者がいれば、六本の牙のある白い象に乗ってそこに現れ、護り、その心を安心させると、お釈迦さまに話している場面があります。白い象にのった普賢菩薩さまの仏像はそれを表したものと いえます。

さて、この普賢菩薩さまの乗っている六つの牙の白い象。インドでは昔から象は神聖な動物であり、お釈迦さまのお母さまが夢で白い象を見て身籠みごもったというお話もあるようにとても大切にされてきました。その大きな力からお釈迦さまの偉大なる力をあらわしているともいえます。

また、六つの牙は六つの修行の徳目である、物惜しみをせず他者のために良いことをする

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

「^{ふせ}布施」、ルールを守る「^{じかい}持戒」、逆境に負けない「^{にんにく}忍辱」、努力を惜しまない「^{しょうじん}精進」、心を調える「^{ぜんじょう}禅定」、真理を見極める「^{ちえ}智慧」をあらわしているとされています。

普く賢い普賢菩薩さまは、偉大なる力を表す白い象をも、その慈悲の力で従えて、修行者を導き、見守ってくれているのです。修行者のみならず、私たちが善きことを実践しようとするとき、普賢菩薩さまは見守っていてくれることでしょう。

— 終 —